



JIAの国際戦略を考える

～その経緯・現状・展望～

2018年6月1日

JIA前国際交流委員会委員長

岩村 和夫 FJIA

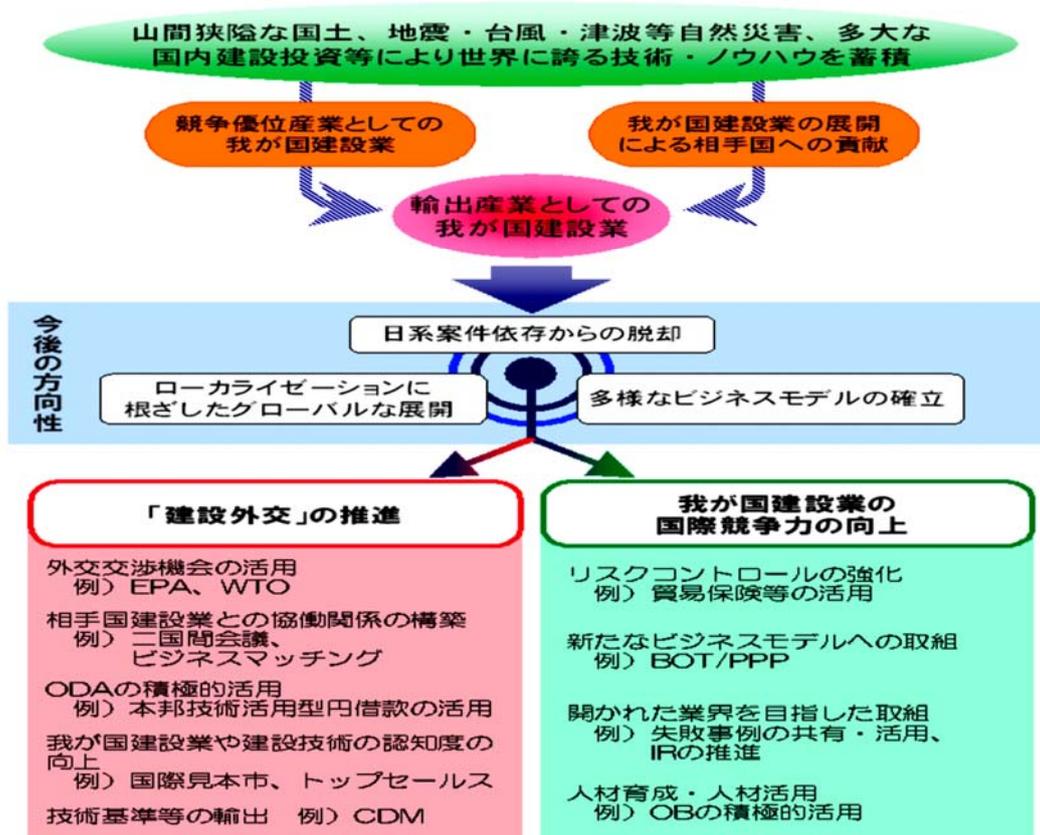
2018.06.01 / The Japan Institute of Architects

目 次

0. 建設業の国際戦略:背景として	01
1. 経 緯	03
2. 展 望	19
3. 結 語	21

2018.06.01 / The Japan Institute of Architects

我が国建設業の海外展開戦略と今後の取組



01 出典: 我が国建設業の海外展開戦略と今後の取組研究会報告書 (H30年3月国交省総合政策局)

0. 出典報告書の概要抜粋

我が国建設業の海外展開は、近年、一進一退を繰り返してきたが、国内市場環境の変化、経済のグローバル化の進展、BRICs や中東市場の台頭など、取り巻く環境が大きく変化する中、今、改めて岐路に立たされている。...

このような認識の下、本研究会(出典参照)は、我が国建設業の今後の海外展開に向けて何をなすべきか、約1年半にわたり検討を重ねてきた。

本報告書では、

第1章で、本研究会としての我が国建設業の海外展開に対する認識、すなわち競争優位産業として進出先の国・地域へ貢献することができる我が国建設業を輸出産業と位置付け、「能動的な」海外展開を志向すべきことを訴えらるとともに、

第2章で、海外展開に当たっての今後の方向性として、日系案件以外への取り組み強化、ローカライゼーションに根ざしたグローバルな展開、請負主体から多様なビジネス展開に触れ、

第3章ではこのために求められる取り組みを、「建設外交」の推進、国際競争力の向上の観点からとりまとめている。

02 出典: 我が国建設業の海外展開戦略と今後の取組研究会報告書 (H30年3月国交省総合政策局)

1. JIA国際戦略の経緯



1-1. JIAのUIA加盟と国内向けプレゼンス

JIAの国際戦略は、1955年のUIA加盟と翌年の旧家協会改組に始まった。すなわち、当時は独立した個人建築家を会員としたJIAを設立し、UIA加盟を錦の旗として日本に西欧型建築家職能の定着を目指したのである。

言い換えれば、当時の国際戦略とは、国内向けのプレゼンスを示すためのUIA加盟と、それによって西欧型職能のあり方を学び、その理念や内容を日本に紹介し普及することであった。

当時は榎文彦氏、故進来廉氏(元UIA副会長)、長島孝一氏を初めとする、少数の国際通会員が中心となって、孤軍奮闘しながら国際関係を担っていたのが実態である。

1. JIA国際戦略の経緯



1-2. UIA職能基準と登録建築家

その後、WTO(世界貿易機関)、GATT(関税貿易一般協定)のサービス貿易自由化の流れを受けて、1999年のUIA北京大会で「UIA職能基準」が承認された。

これは、アメリカ主導で中国を巻き込み、従来のユーロ・セントラルな「ブリティッシュ・スタンダード」に変わる、建築家職能の「グローバル・スタンダード」の樹立を目指したものである。

JIAは1989年にアメリカ建築家協会(AIA)と職能協定を結び、UIAのPPC常置委員会(Professional Practice Commission)にも積極的に参加しながら、建築家という職能の定着に向け、協力して活動を展開してきた。

このUIA職能基準を拠り所に、JIAは日本における建築家国家資格の雛型として「登録建築家資格制度」をスタートさせた。国際(交流)委員会は関連委員会と共同し、UIAやAIA等との連絡を密にしながら、国際的観点から建築家の職能、教育、資格制度の構築を支えてきたのである。

1. JIA国際戦略の経緯



1-3. UIA大会誘致と国際的友好関係の樹立

JIAは職能や資格制度の定着を一気に推進する起爆剤として「UIA大会誘致」を目指した。1999年北京大会（名古屋誘致）、2002年ベルリン大会（東京誘致）での二度に及ぶ誘致活動の失敗経験を生かし、2005年イスタンブール大会でついにUIA東京大会の2011年開催が決まった。

その間、UIA大会誘致と大会成功のための加盟各国との密接な関係構築が、約12年に亘るJIAの国際活動の主要な課題であった。岩村の副会長就任（2008～2011）、理事会、職能および教育常置委員会、部会活動等への積極的貢献、さらにARCASIA（アジア建築家評議会）への加盟（1991年）や国広会長就任（2012～2014）など、JIAは積極的に国際組織へ参加・貢献し、その国際ネットワークを強化した。

また二国間レベルでは、個々に韓国のKIAとKIRA、タイ、モンゴルなどと友好協定の締結を推進し、その関係強化を図ってきた。その際、国際委員会は「JIA国際交流基金」の助成を受けながら、出来るだけ多方面に友好関係を樹立する方向で活動展開してきた。

1. JIA国際戦略の経緯



1-4. 国際協調と国際事業展開への転換

2011年UIA大会後のJIA国際戦略は、「UIA東京大会宣言」に謳われた「持続可能な社会の実現」に向けて、国際協調の推進と、日本の建築家の国際事業展開を支援する具体的な活動を重点に転換して行く必要があった。

すなわち、国際ネットワークへの形式的な参加と友好の段階から、UIAやARCASIAのネットワークを積極的に活用した「国際協調活動」や「クロスボーダー・プラクティス」を推進する具体的な事業協力関係への転換である。

その意味で、国際ネットワークへの参加や各国との友好協定の見直しを行うとともに、主要な大会等への代表団派遣や、訪問国の接遇、名誉会員の授受など、具体的な国際交流の内容も再検討する必要がある。

また、本部国際委員会と支部・地域会との連携・支援を強化して、一部会員の国際化から広く一般会員や、特に次世代の若い会員の国際化を支援・推進する必要がある。

国際建築家連合 (UIA)

～建築の職能に貢献するグローバルなネットワーク～



歴史

国際建築家連合 (UIA) は、国籍や人種、宗教、あるいは建築的信条の違いにかかわらず、世界中の建築家を束ね、各国を代表する職能組織の連合体として、1948年6月28日にスイス、ローザンヌで設立された。今年で丁度70年目を迎える。

設立当初は27カ国にすぎなかったUIAも、現在では120の国や地域の建築家と連携する組織へと発展し、世界の計320万人を超える建築家、および約50万人の学生を束ねるまでになった。

すなわち、UIAは5大陸のすべてをつなぐ、他に比類のない建築家の職能ネットワークで構成される非政府組織 (NGO) である。

本部はフランス、パリ(モンパルナス・タワー55階)にある。

国際建築家連合 (UIA)



民主的で公平な構成

UIAは、その使命を全うするために永続的に専門家やその代表者とのつながりを保持し、国際的レベルで相互の関係を民主的かつ公平に運営できるように構成されている。すなわち、意思決定の段階は、

上位から1) UIA 総会、2) UIA 理事会、3) UIA 役員会、4) UIAメンバー・セクションの4つで成り立っている。

UIAメンバー・セクションは、その国や地域の建築家職能団体として最も代表的な存在である。そして、個々のメンバー・セクションは国・地域レベルでは独立しているが、UIAのメンバーとして政府組織やその他のメンバー・セクション、そしてUIA自身に対して、様々な責務を負う。

それらは地理的に世界の5つの地域にグルーピングされている。すなわち、第I地域の<西ヨーロッパ>、第II地域の<東ヨーロッパ・中東>、第III地域の<北中南米>、第IV地域の<アジア・オセアニア>、そして第V地域の<アフリカ>である。

UIAの活動主体の役割と構成

UIAは、世界中の建築および建築家の職能の活性化や改善に関し、様々な活動を通して貢献している。

具体的には、その4つのキーとなる分野、すなわち<1. 建築教育>、<2. 職能実務>、<3. 国際設計競技>、<4. サステイナブル開発目標 (SDGs)>のそれぞれに常置委員会 (Commission) が設けられ、

さらに、現在3つのテーマに分類された計11の国際的・地域的な活動部会 (Work Programme)、すなわち、1) 公共施設 (公衆衛生、スポーツ&リゾート、教育&文化)、2) 住居 (社会住居、コミュニティ建築、中間都市開発)、3) 建築と社会 (万人の建築、建築と子供、遺産と文化的独自性、癒しの場、余暇) があり、それぞれ活発な活動を展開している。

UIAメンバー・セクションの全ての建築家は、その指名によってUIAの常置委員会や活動部会に参加し、自らの職能の発展に寄与することができる。

UIAのパートナー: 特別な世界的ネットワーク

UIAは、建築家の国際的集団であることを示し、その活動を広めるために、以下のような高い地位にある国際的組織と共同関係を結んでいる。

1) UIAが建築分野を代表する唯一の国際団体であることを証する政府間組織: UNESCO (ユネスコ)、UN-HABITAT (国連ハビタット)、UNEP (国連環境計画)、UNECE (国連欧州経済委員会)、UNIDO (国連工業開発機関)、WHO (世界保健機関)、WTO (世界貿易機関)、IOC (国際オリンピック委員会) 等

2) UIAが他分野におよぶ連携を発展できる非政府組織: ISOCARP (国際都市・地域計画家協会)、IFLA (国際造園家連盟)、ICOMOS (国際記念物遺跡会議)、DOCOMOMO (ドコモモ)、EAF (非常時の建築家財団)、WGBC (世界グリーン建築評議会) 等

3) 地域の建築家組織: ACE (欧州建築家評議会)、FPAA (汎米建築家協会連合)、ARCASIA (アジア建築家評議会)、AUA (アフリカ建築家連合)、CIALP (国際ポルトガル語圏建築家評議会)、CAA (英連邦建築家協会)、OAA (アラブ建築家連合)、UMAR (地中海建築家連合)

<詳細は www.uia-architects.org 参照>

4段階構成の概要

1. 総会: 下記全員
(3年毎の大会時に開催)
2. 役員会: 会長・前会長・副会長5名・事務総長・収入役 等
(理事会時およびその中間時に開催)
3. 理事会: 上記+理事+常置委員会委員長+活動部会長等
(少なくとも年2回開催)
4. メンバー・セクション: 5地域/計120の国・地域
第Ⅰ地域: <西ヨーロッパ>
第Ⅱ地域: <東ヨーロッパ・中東>
第Ⅲ地域: <北中南米>
第Ⅳ地域: <アジア・オセアニア>
第Ⅴ地域: <アフリカ>

主な活動母体とテーマ

- 4つの常置委員会 (Commission)
 - <1. 建築教育 (Architectural Education)>
 - <2. 職能実務 (Professional Practice)>
 - <3. 国際設計競技 (International Competition)>
 - <4. サステイナブル開発目標 (Sustainable Development Goals): 新設>
 - 3つのテーマに分類された活動部会 (Work Programme)
 - 1) 公共施設: 公衆衛生+スポーツ&リゾート+教育&文化
 - 2) 住居: 社会住居+コミュニティ建築+中間都市開発
 - 3) 建築と社会: 万人の建築+建築と子供+遺産と文化的独自性+癒しの場+余暇
- メンバー・セクションの全ての建築家は、その指名によって上記の常置委員会や活動部会に参加することができる。

アジア建築家評議会 (ARCASIA)

～建築の職能に貢献するリージョナルなネットワーク～



設立の経緯

●1967年のコモンウェルス建築家協会(CAA)のニューデリー会議期間中に、その発端として6つのアジアの加盟協会(インド、スリランカ、パキスタン、マレーシア、シンガポールおよび香港)間で、地域の環境デザインと統一に資するセンターの創設が喫緊に必要であると認識された。それに従い、「環境・技術前進センター(CETA)」および「アルカジア設立評議会」の立ち上げが提案された。

●1970年9月に第一回設立評議会(1969-1974)が開催され、CAAアジア地域における国ごとの建築家協会の集合体を、正式に「アジア建築家評議会(ARCASIA)」と命名することが決議された。この組織体の設立は、世界規模の団体に求められる事柄はもとより、同地域で緊急の重要性を持った事柄に対処すべく、地域内の個々の加盟協会間における密接な共同関係を可能にするためとされた。

アジア建築家評議会 (ARCASIA)



●1979年は香港における第一回設立評議会から10年目にあつたが、その年ジャカルタで開催された設立会議で、「アルカジア」および「アルカジア建築教育委員会」の定款が調印された

そこに示されたアルカジアの主な目的は以下の通りである：

- 1) アジア地域内の国単位の建築家協会を連合し、民主主義的な基盤の上で友好的、知的、藝術的、教育的、科学的連携を強化する
- 2) 加盟協会間の職能的な親交、相互の協力・支援関係を強化し、維持する
- 3) 加盟協会の建築家を、国および国際レベルで代表する
- 4) 社会における建築家の役割に関する認識を促進する
- 5) 社会に奉仕する建築家および建築職能の啓発・教育を促進する
- 6) 建築環境の分野における研究および技術的進歩を促進する

●1991年に日本はJIAを代表協会としてARCASIA加盟が承認された

●1997年9月に、JIAはARCASIA FORUM 9を東京で開催した

●2011～2012年期中に、国広ジョージ氏がARCASIA会長を務めた

●2018年9月に、JIAはACA18を東京で開催する

アジア建築家評議会 (ARCASIA)



運営機構の概要

1. 役員会: 会長+副会長+幹事+収入役+アドバイザー+各委員長
(年4回開催)
2. 理事会: 上記+加盟建築家協会代表+オブザーバー
(年1回開催)
3. 加盟協会: 2018年6月現在、アジア地域を横断する3つのゾーンと、21の加盟協会で構成されている
＜Zone A＞: ブータン、パキスタン、インド、スリランカ、バングラデッシュ、ネパール(計6カ国)
＜Zone B＞: ミャンマー、タイ、インドネシア、ラオス、マレーシア、シンガポール、フィリピン、ベトナム、ブルネイ、ブータン(計9カ国)
＜Zone C＞: 中国、香港、韓国、日本、マカオ、モンゴル(計6カ国)

アジア建築家評議会 (ARCASIA)



活動の母体とテーマ

- 建築教育委員会 (ACAE: Committee on Architectural Education)
- 建築職能委員会 (APPC: Committee on Professional Practice)
- 社会的責任委員会 (ACSR: Committee on Social Responsibility)
- グリーン&サステイナブル建築委員会 (ACGSA: Committee on Green & Sustainable Architecture)
- 次世代建築家委員会 (ACYA: Committee on Young Architects) 等

主なイベント

- アジア建築家大会 (ACA: Asian Congress of Architects)
- アルカジア・フォーラム (ARCASIA Forum)
- 学生ジャンボリー (Students Jamboree)
- 学生設計競技 (Student Competition) 等

<詳細は www.arcasia.org 参照>

2. JIA国際ネットワーク戦略



2-1. グローバルネットワーク: <UIA>世界120の国・地域

- 1) UIA加盟を維持して、日本建築家のグローバルネットワークをJIAとして確保し、大会には代表団を派遣する。
- 2) 代表団は会長を代表として国際交流委員を中心に構成する。
- 3) 当面、UIA役員にJIAからは派遣しないが、適宜検討する。
- 4) 各種委員会への派遣費用は一部JIAが負担するが、自主参加のワークプログラムへの参加は自主負担とする。
- 5) リージョンIV(アジア・オセアニア地域)の会議への国際交流委員派遣費用は見込む。
- 6) 支部、地域会にUIA活動プログラムや大会への参加を促す。
- 7) 他会に対しては、当面学会など5会に2018年ARASIA東京大会や2020年UIAリオ大会参加を呼び掛ける。

2. JIA国際ネットワーク戦略



2-1. 地域内ネットワーク: <ARCASIA>アジア21カ国

- 1) ARCASIA加盟を維持して、近隣国とのネットワークを確保し、大会、理事会、各委員会に代表団を派遣する。
- 2) 代表団は会長を代表として国際交流委員を中心に構成する。
- 3) 大会の機会を使って「UIAリージョンIV(アジア・オセアニア地域)の情報交換や、友好国との接触や会議を行う。
- 4) 各委員会への派遣費用を見込む。
- 5) 他会にもアルカジア大会参加を促す

2. JIA国際ネットワーク戦略



2-3. 協定に基づく二国間交流

＜アメリカ、韓国、タイ、モンゴル、中国＞

＜2018年度計画＞

	AIA	KIA	KIRA	タイ	モンゴル	中国
協定維持	●	●	●	●	△	×
名誉会員授与	●	●	●	●	×	×
JIA大会招待	●	●	●	●	×	×
会長派遣	●	●	×	●	×	×
国際委員派遣	●	●	×	●	×	×

●:適用

△:要検討

×:非適用

2. JIA国際ネットワーク戦略



2-4. ＜二国間協定の維持＞

- 1) AIAとの職能協定を今後も維持して協調した職能推進を図る
- 2) JIA・AIA会議をPPC等、UIA活動の情報取得の場としても機能させる
- 3) AIA大会はイギリス、オーストラリア、カナダ、メキシコ、EU、UIA、アルカジア、韓国、中国、タイ、シンガポール等の多くの代表が一堂に会する貴重な機会であり、JIAは代表団を組織し効率的に諸問題に対応する
- 4) 韓国のKIA、KIRAとはFIKAの実態を見極めつつ、それぞれとの協定を維持することを前提に、将来に向けて検討する
- 5) タイとは友好の歴史を尊重して協定維持し、実施した若手建築家交流プログラムを生かし友好を深める
- 6) モンゴルとは協定の見直しを行い、再調印のタイミングで維持するか否かを定める
- 7) 中国は今後の具体的交流方針を名誉会員授与の機会に相談する
- 8) 儀礼的には双方の会長が2年任期に一度、名誉会員に授与するため大会に招くなど、実質的な関係構築に努める

3. 結 語 JIA国際戦略の今後の実践に向けて



- 3-1. グローバルネットワークの充実: <UIA> 世界120カ国
- 3-2. リージョナルネットワークの充実: <ARASIA> アジア21カ国
- 3-3. 2国間交流の持続的活性化
- 3-4. 国内(本部・支部)における情報交流と共通認識の強化
- 3-5. 国際活動主体の世代交代
- 3-6. 国際交流の多様化とその支援
- 3-7. 日本建築センター<海外建築設計団体等調査業務助成>等の外部資金の活用
- 3-8. 当面は、関連団体に対する2018年ARASIA東京大会や、2020年UIAリオ大会参加の呼び掛け



ご静聴ありがとうございました

岩村 和夫

FJIA